

会議・打合せ等記録簿

1	会議等名称	令和6年度 第1回 子ども・子育て会議
2	期 日	令和6年9月5日（木） 14時00分～15時30分
3	場 所	新城市役所4-3会議室
4	出 席 者	子ども・子育て会議委員（14名中4名欠席）
		健康福祉部長、事務局（こども未来課、こども家庭センター）

会議・打合せ等の内容

○会長あいさつ

○議題「第三期新城市子ども・子育て支援事業計画」策定について
～事務局から説明～

○議題「放課後児童クラブ」の運営について（委託業者決定、R7利用時間延長）
～事務局から説明～

委員：児童クラブについて、2年前の会議でも8時からの開設だと働いている方からすると、仕事との兼ね合いで早い方がいいんじゃないかというのを聞いていたのでニーズがとてもあるのことは思っていたが、実際児童クラブの開設時間が延長するということは、人員不足のところが解消してるのかどうかというのがまず土台としてあって、余裕があってそこから時間延長というのができるというのが本来の支援員の負担があるかどうかというところかなと、実際に働いていて感じるところである。

児童クラブは1つのクラブに最低2人の人員を充てていただいているが、中には2人でもすごく厳しい状態があったりするので、1人の子にマンツーマンで接しないといけない状況や、他の児童たちを1人で見ないといけないという状況が多々あったりする中で、今は3人の支援員で1つのクラブを組んでくれているのでとても助かっている面もあるので、それが確保された上での延長ができるのであれば多分大丈夫かなと思う。

私が児童クラブで働かせていただく上で、最初は17時までだったら働けますという話でしたが、終わりが18時なので18時まで働くのが決まりですと言われていたので、私は18時まで働かせていただいているという状況なので、それが18時30分までというとなみんなが18時までじゃないと働けないという方だった場合、あと30分どうするのかというところや、今後は終わりが18時30分までだから18時30分までじゃないと働けないとなってしまうと、少し厳しいのではないかなと思うところもある。全体的に考えて人手不足というところが解消されれば、もちろん子どもに寄り添えるような支援ができれば良いなと、この資料を見て私が感じたことである。

事務局：やはり一番心配なのは支援員の確保だと思う。支援員がいないと実施ができないというところがあるので、その点は委託業者も全国的に児童クラブを実施している中でいろんなノウハウをお聞きし相談しながら、また社会保険の扶養というようなこともあるかと思うので、その辺りを支援員さん1人1人に丁寧にお話しながら進めていくようにする。

3割強の保護者の方から延長の希望が出ているというところと、延長料金を設定するというと

ここで、利用者全員が延長を利用するということでもないので、例えば千郷だと4クラスある中、延長の時間帯は2クラスに集約できれば支援員さんも集約できるところもあると思うので、それも含めてこれから委託業者と協議しながら進めていきたいと思っている。

委員：18時から30分が月額かかるという感じだと思うが、実際お迎えが18時を過ぎてしまうことも現時点でもある。でも、毎日ではなくてたまにそういうことが出てしまうという状況の中でグレーな部分は出てきてしまう懸念もあるので、そういうところも踏まえてどうするのかというのもある。

事務局：これを機にそういった方には延長の申請を出していないと延長利用ができないというところを説明していきながら、1日2日延長しても月額がかかるということを周知しながら進めていきたいと思っている。

委員：18時までには間に合うようにと思っても道路の都合で1～2分遅れることを電話で報告することもあるが、保護者も子どもに出すお金もギリギリにつめて働いていると思うと、18時ギリギリでも18時に間に合いますとかなってしまうのかなと思う。1日のために千円払うとなるとそこは大きくなるかなと思う。

事務局：平等、公平なためにも、1分遅れただけだからとか、1日だけだからというのは少し他の方に説明するのは難しいところはある。もし、1日のために千円ということだったら、例えばファミリーサポートなどを使うとか、そういうことも考えられるのかなと思うので、急いで事故につながらないように余裕をもって利用していただきたいと思う。

会長：例えば今回の台風のような、道路状況が冠水してつけないとかあるかもしれない。これは委託業者と市役所、責任の所在はどうなっているのか。

事務局：市からの委託であり、責任の所在は市にある。

会長：蒲郡市が19時までになっているということは、豊橋市で働いている人が多いと思う中で、距離感があって19時というのは多分余裕をもった設定だと思う。17時15分が終業で18時に新城市に着くとなると、豊橋の南側とか西駅方面からだったら苦肉の策である。であるならば、どうせ延長するのであれば19時までいった方が安心ではないかと思う。働いている人の環境を考えると、新城市内の人は18時30分で十分であるけれど、17時15分が終業だとすぐに会社を出られる人はなかなかいないと思うので、その辺りを考慮していただけないかなと思う。

基本的に大筋は皆さん延長することは合意されていて、人を充てることを今後考えていくと。ただ18時30分までとなると、蒲郡市や豊川市が19時まで延長をやっていることを思うと新城市はもっと遠くなるのだから19時までの延長でどうかなと思ったりもするので、そこを少し検討していただければありがたい。

事務局：最終的には19時までの延長を考えている。現在、こども園では最長19時まで延長保育を実施しているので、これに合わせる形の計画では考えているところである。ただ、先ほど委員が言われるように、やっぱり支援員の協力の問題が一番大きい。今、市役所のルールでは、今まで以上のインセンティブというか、手当などを支給することができにくい中で、今回民間委託になったことによって、多少の手当なり、インセンティブが付きやすくなるのではないかなというところがあって、支援員さんにはそのような説明をしながら、朝30分夕方30分の延長という

のを確認させていただきたいと思う。なので、支援員はまだ知らない状況である。まずは、民間委託になる10月からは今までのやり方をそのまま引き継いでいくというのはこれ大前提のお願いとして支援員さんたちには説明させていただいている。その状況ですぐに来年度から延長をお願いするには、余りにも早過ぎる説明になると、今までの前提が崩れてしまう懸念もあり、そこは慎重に進めて行く必要性から、先ずはこの会議でご報告させていただいて、それから慎重に進めさせていただきたいと思うのでよろしくお願いします。

会長：子ども子育て支援事業計画に関して、基本目標が3つあって「家庭の視点」「地域の視点」は良いと思うが、「子どもの視点」という目標が書いてありながら、取組方針にあることは全部大人がやることと書いてある。だから、子どもの育つ力を大人が守るみたいな感じになっている。「こどもまんなか」社会ということなので、子どもの行動計画というか、子どものベクトルで書かないといけないのではないかと思う。視点が全て大人からの感じがするのが気になる。

委員：主語が「僕は」になっていない。子どもの育つ力を育むということであると、「僕は」「私は」というのを主語として右側の取組方針がつくられていくと、その下の「家庭の視点」「地域の視点」との差別化がより明確に図れるんだろうなと思う。

委員：これ本当に本人が真ん中にいない。障害は本人の問題ではなく社会の問題だというのがこの20年間いろんなところに突き当たっては余分なエネルギーを使い果たしたというのが正直なところである。今の児童クラブは、支援級の子どもたちは利用できるのか。放課後デイサービスも限りがある。新城で生まれた子どもたちが新城で育つことが「こどもまんなか」として子ども自身にとっては一番良いことかなと思う。

障害児に関わることは、地域福祉計画の中でもいろんなことをうたわれているが、重度の方に対してはどうしても枠からはみ出て、グレーな部分は保護者の方が必死になってやっている。最近、重度心身障害の就学前の子どもたちとの集いに行くと、様々な病気や障害で医療や福祉の面でいろんな配慮がいるお子さんたちの活動をしてきたが、親御さんたちの話しをそれぞれ情報交換する中で、最終的に親御さんたちは面白いことを言っていた。大変な状況の子どもさんたちの話しを聞いて、「うちはね、まだましかな。だから頑張らないといけないっていうところですよね。」と、会が終わってから帰るときに個別にちょっと声かけをした。いやいや、そうではなくて、そもそも障害のない子どもさんと比べると、その子は何の問題もなく、手を貸すこともなく育っていけることを考えると、障害も関係なく生まれた個性を大事に育てていけるまちにするように、お金はないけど知恵を出し合い、中身のあるものにしていければ良いと思う。

委員：障害福祉に従事するという立場から参加しているという認識で、資料は一通り全部目を通してきて、先ほど会長がおっしゃったように総じて良いことが書いてある。そう思ったときに、例えばこども基本法の条文のところに「全てのこども」とあるように、この全てのこどもに対してやれるといいなというふうに思ったり、六のところに、「家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境を整備する」などと書いてあったり、③資料の4ページに、こども・若者の社会参画・意見反映として、この①のところに、こどもや若者の状況やニーズをより的確に踏まえてということが書いてあり、もちろん何一つ反対意見はないが、1つだけ思ったのは、こどもや若者のニーズはすごく大事なんだが、それよりもこれから目指す社会や世の中というのはこんな社会だから、そのためにこんな人材が育つように、どのようなことをしていくみたいな、大人として子どもを導くような、何のためにやるのかということがきちんと書かれてくると良いなと思う。「こどもまんなか」はとても大事なことで、育てる道しるべみたいなものを社会がきちんと提示していけるようになると良いと思う。

委員：実際児童クラブで発達障害をもっている子どもたちを見ていて、他市では発達障害の子と通常の子と全く別でやっていると聞いている。それとは別に新城市では一緒になってやっているということに関しては、子どもという段階で見たときにグラデーションというのが本当にあって、それってすごくすてきなことだなと思っている。真っ白な子もいれば真っ黒だろうなと思う子もいれば、本当にグレーな子もいてグレーでも薄いグレーや濃いグレーがあったりとかして、でもそれが1つになっているということが、新城市としては強みにしていきたい。他ではやっていないからこそそれは強みにしていきたいなというのは思う。

発達障害だったり、そういう特性があるという子はやっぱり手はかかるし、でも実際にそういう子ではなくても、ヤンチャな子もいて手はかかるし、一概にはっきりと分けられるものでもないなというのは実際に現場で見たりしている。ただ、そこを世の中が分けてしまっているがゆえに、すごく難しい部分もあったりとかして、学校では分かれているけど児童クラブでは一緒に、何となく児童の中で暗黙の了解で、この子はこういう子だよねっていうのがわかった上で距離をとる。距離感をうまくとったりとかして、でもそれが支援員としてどのように指導するかというか、どういう言葉掛けをしたらいいのか戸惑う。そういう子は口に出せないのだからやっぱり手足が出てしまう。言葉の発達よりも、行動の発達の方が子どもは早いので、言葉を出すよりも手や足が先に出るというのが実際にあって、動きながら誰かれ構わず攻撃的なことをやって、「それはよくないよ。」とか、「先生と1つ約束しよう。」とかやってたりはするが、そういう子たちとの関わりを大人がどうするかによって、子どもたちの意識というのもすごく影響して変わってくるだろうなというのも実際に感じていたりして、やっぱり大人が分けて見てしまうと子どももその空気感を讀んで、あの子はああいいう子だから遊ばないみたいな感じの空気感になってしまったりとか、何かうまくできなかつたりとかして、でも、それをなんて言ったらいいか難しいところもあって、〇〇組さんだからねとも絶対にそんな言葉は発することもないし、そこがやっぱり一緒だからこそ難しいというところもあって、でもそこがうまくできていけば新城市としてはそういうところにも寛容で、良い市だよなというふうになっていったらいいなあと思うのだが、大人が変わっていかないと社会は変わらないし、子どもも変わることができないのかなと思うので、まずは自分たちが意識を変えてやっていくことが実際に現場で感じることである。

子どもが何かをやりたいってなったときに、そこに予算が充ててもらえなかつたりして、工作をただひたすらやりたい子が、テープを全部使ってしまう子もいるのだが、使いすぎと言われて、その子のすてきなところが伸びなくなってしまう。それが夢中でやりたくて、ずっとそれをやっていたいという子が、結局大人のそういう何か予算的なものが、あなたばかり使ってみたいな感じになってしまい、結局押さえ込んでしまっているのかなあというのはある。

結局、最終的には社会がどうするかによって、一番しわ寄せが子どもたちに来ているのかなと思う。

会長：今の学校教育のシステムが、Society3.0 という工業化社会でどんどん拡大していてそのシステムで来ている。大量にある程度の知識、技術を持った子どもたちをたくさん育てて工業化社会の現場、社会を発展させてくというんだが、4.0 から 5.0 になろうとしていく中で、子どもが減っていったら、今度その子どもたち、個性化教育が今すごく言われている中で、過去の教育が少し否定されつつあるような状況になっている。だから逆に言うと、幼稚園、こども園、保育所にあるような、子どもに好きな時間、好きなことをやらせたりして、その子の個性を伸ばすということを今やらなければ、社会が変わらなければいけないことなのかなというのはあるのだが、また逆に言うと Society3.0 からの教育が今だに残っていて、今ちょうど過渡期にいるということは自覚いただければと思う。

先ほど委員が言われた予算があるから夢が削られるということは、大人は本当に重々承知しなければいけないし、そこをどういうふうに折り合わせていくのかというのがとても大事なかなと思

う。

今、基本目標のことでいろいろ皆さんからご意見いただいたのだが、「家庭の視点」というのも良いが、家庭に恵まれない子もいる中で何か変わる言葉がないかなと思っている。

今、小1時間ぐらい皆さんいろんな意見言ってくださって、それぞれの働いている環境の中でのリアルを言っていただけにいると思う。

～委員間の意見交換～

委員：1人の子どもが生まれたら、その1人の子どもにどれだけの社会の側がたくさんの声かけや力を貸すことができるかということが出来るか、そうすることでどの子もしっかりと社会の中に飛び出していけるんだろうなと思う。

8月にあった若者議会に少し飛び込んで、障害の当事者としてちょっとお邪魔して、若者議会に参加されてる若者たちと1時間程度一緒に本人の様子など、実際に議論されているテーマに合わせてどんなふうなことがあるんだよということをお伝えしたが、非常に本人は有意義で、若者議会の皆さんとももう少し距離があるかなと思ったら、近しい感じで交流する時間がとれた。こういうところにも子どもたちが育っていく環境はあるんじゃないのかなと思う。

委員：私も親として、子どもが幸せそうな姿を見るのはやっぱり親として嬉しいことだなと思って聞いていた。こども園の中でもいろんなお子さんがいて、子ども同士でいろいろ感じながら過ごしていると思う。その中で、お互いが成長している場面を目にすると、私達保育士もとても嬉しい気持ちになるので、区別のない社会が来ているのかなという実感をしている。

委員：新城市では、児童クラブでも見境なく接しているのは、やっぱりこども園のときからどんな子でも受入れるということでやってきたその姿勢だったりとか、あと養育など一生懸命10年間積み上げてきたものが、子どもさんたちや親御さんたちを見てきて思うところである。今年からこども家庭センターができて、またこども園との距離が近くなってきて、いろんなことを話し合ったり、相談したりという環境もできてきた。また、新城市はこの会議でもわかるように、皆さんの顔、支援者の顔がわかる。なので、こういうところで何かあったときに声をかけ合いながら、お子さんたちを支援しているというのが新城市の強みかなというふうに思う。

委員：皆さんの話を聞いて、実際に状況を説明させていただきたいと思う。夏とか長期休業のときの児童クラブの送迎でファミリーサポートを使う件数は朝だと7件ある。なので、朝の延長が7時30分からになってくれるとそれが大分解消されるかなと思う。親御さんに送迎してもらう時間、車の中での会話とか本当に貴重な時間だと思うので、そこは親御さんにやっていただけののが一番だと思っている。なので、延長していただけるのはありがたいと思っている。

自分の子どもを見ていて一緒に生活をしていく中で、こういう子はこういう特徴があるからこういうふうに接していこうというのは自然に自分たちが学んでいったのはよく見ているので、やはり一緒に育っていくというのは大事なことだと思う。

支援級の子はみんな児童クラブには行けているか。

事務局：申し込みがあった方については断っていることはない。

委員：おそらく支援学校の子が長期休業のとき、放課後デイサービスがいっぱいで毎日通えなくて、週3日ぐらいという子を何人か聞いているので、支援学校だと市外になってしまうので、溢れてしまうというか、入ってこない情報としてどうしても出てきてしまうのかなと思うと、そこ

も何とか難しいかもしれないが仕組みができないかなと思う。

委員：放課後デイサービスのニーズがある中で、児童クラブにおけるお子さんのあり方、先ほど言われたようにどうしていいかわからない、で問題が起こる。私が知っている子が何人か辞めましたとか、放デイに変わりたいですという話しも聞いている。ただ、支援員が悪い訳でもなく、お子さんが悪い訳でもなく、相互に合った環境を作られなかったという現実があるのと、そこを見極められる大人が必要だったというところなのかなと思う。

市の計画などは「全てのこども」などとなっているが、何年か前に問題になったのは、「全てのこどもが」ということであったのだが、こども園のお子さんしか制度に乗れず、おひさまのお子さんは福祉制度だけど 4,600 円を払わなければいけなかったということがあった。でも 2 年後、市の方ですべて補助をしていただけることになり、今は給食費を含めてすべて支援していただけることになり、こども園と同じ条件で通えるので、逆に親御さんたちに説明をすると「そうなんですか」という感じで知らなかったみたいな反応で、少し前まではそこを比較して、自分だけされない、うちの子がこうだからしてくれないんじゃないかという考えを持つ方が多かったのが、今はそうではなく、自分のお子さんが置かれた環境で生きていきますという形なので、逆に後から給食費は帰ってきますと言うと、そんなに新城市はお金ありますか？みたいな感じの反応で、平等になってきたことを感じる。

会長：たくさんいろんな制度を作ってもその制度が利用者さんに届かない場合もあるし、読んでもよくわからないという制度もあるのでまだまだ課題なのかなと感じる。あとフォント数を異常に落としすぎて、読む気にならないようなものもある。

いろいろ出たご意見をまた吸い上げていただいて、また、改善していただければいいかなと思う。

本当に皆さんいろんな意見を出していただきまして誠にありがとうございました。

○その他

- ・新城市こども園再編・整備計画について
- ・保育支援システムの導入（こども園、児童クラブ）について